

平成26年度研究成果報告書《平成25・26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	23	都道府県・指定都市名	愛知県	研究課題番号・校種名	5(4)・高等学校
				領域名	E S D
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための指導方法等に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童生徒数)	あいちけんりつとよたひがしこうとうがっこう 愛知県立豊田東高等学校 (718人)				
所在地 (電話番号)	愛知県豊田市御立町11丁目1番地 (0565-80-1177)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp">http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp</a>				
研究のキーワード	環境教育, 国際理解教育, 地域連携教育, 多彩な教育課程の設定				
研究成果のポイント	ア E S Dの推進において、本校が継承・発展させてきた「環境教育」、「国際理解教育」、「地域連携教育」という3つの柱を明確に示すことにより、当たり前の教育活動を意識的に行うシステムを構築した。 イ 大学や地域の研究機関、行政機関、NPO、NGO等と連携を深め、外部の教育資源を有効に活用することにより、E S Dの継続性を保証した。 ウ 総合学科の学校設定教科・科目である「産業社会と人間」、及び「総合的な学習の時間」だけでなく、各学科に共通する各教科・科目でE S Dの視点を取り入れた授業を展開し、学校全体でE S Dに取り組む在り方を追究し、成果を上げた。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

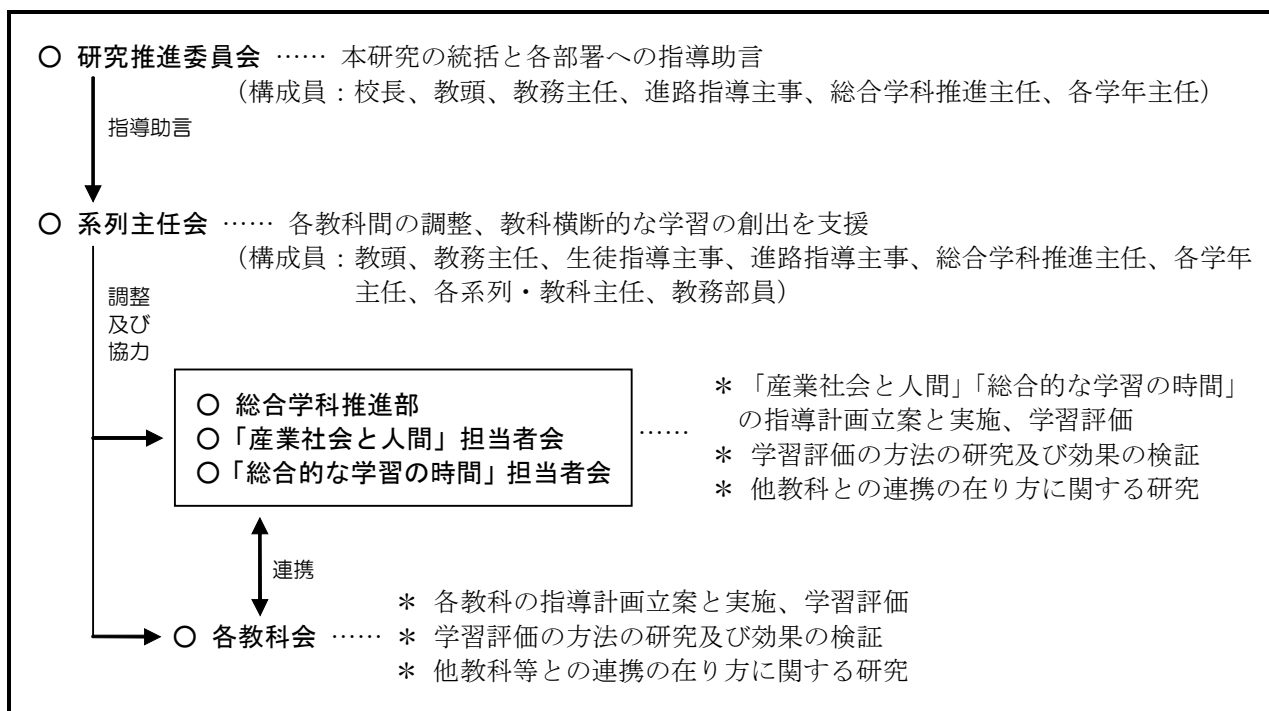
新学習指導要領を踏まえた総合学科におけるE S Dの体系的な推進及び各教科等における効果的な指導と評価の在り方に関する研究
---

### (2) 研究主題設定の理由

平成25年度入学生から本格的に実施された学習指導要領では、各教科や総合的な学習の時間において、持続可能な社会の実現に関わる課題が掲げられ、E S Dの視点に立った指導を行うことが求められている。それを踏まえ、本校では、学校の教育活動全体をE S Dの視点から見直し、「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」の内容を改善するとともに、各教科においてもE S Dの視点に立った取組を実践することとした。

学校全体でE S Dの視点に立った指導を効果的に行うためには、学習指導要領を踏まえながら指導内容とE S Dとの関連付けや教材開発、生徒の主体的な活動を一層重視した指導方法、学習評価、教科間の連携等について、組織的な実践研究を行うことが不可欠である。本研究を通じ、総合学科におけるE S Dを推進するとともに、他学科にも応用できるE S Dの普及を目指した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成 25 年度	<p>5月 事前アンケート，教員全体研修会 ふれ愛フェスタ2013（部活動，科目選択プランより希望者）【地域連携教育】</p> <p>7月 矢作川とその水源林の保全（1，2年全体講話）【環境教育】 中国高校生友好使節団受入れ，オーストラリア姉妹校訪問【国際理解教育】</p> <p>8月 生徒全体に対する講話「ESDとは」 SPPで矢作川及び流域の人工林の野外調査（2年生理系）【環境教育】</p> <p>10月 矢作川河畔公園の整備活動と活用法の考案（1年生全体）【環境教育】 マレーシア修学旅行での現地校交流（2年生全体）【国際理解教育】</p> <p>11月 アジア・太平洋地域高校生ESDフォーラム in Sakai 参加</p> <p>12月 いなかとまちの文化祭，桜町本通り商店街八日市【地域連携教育】 ESD子どもフォーラム（名古屋国際会議場）発表 ESD高校生コンソーシアム（名古屋大学）発表</p> <p>1月 岡山プレフォーラム，ESDイヤーキックオフイベント（名古屋）</p> <p>2月 代表生徒による豊田市長表敬訪問，文部科学大臣との懇談</p> <p>3月 豊田市矢作川研究所シンポジウム発表【環境教育】 マレーシア連邦土地開発庁（FELDA）の学校視察受入れ【国際理解教育】</p>
平成 26 年度	<p>5月 経過確認アンケート（平成25年度3年生は平成26年2月に実施） ふれ愛フェスタ2014（部活動，科目選択プランより希望者）【地域連携教育】</p> <p>6月 「ESD2014地域に何を残し，今後どう動くか」（名古屋）参加・発表</p> <p>7月 矢作川とその上流の保全（1年生全体講話）【環境教育】 愛知県「大村知事と語る会」参加・発表</p> <p>8月 矢作川水系における外来生物の調査，人工林の調査，獣害の調査【環境教育】</p>

平成 26 年 度	8月	とよたエコフルタウン、水素燃料など次世代エネルギーの探究活動【環境教育】
	9月	タイ・スリランカ「子供の森」計画子ども親善大使受入れ【環境+国際理解教育】 オーストラリア姉妹校訪問受入れ【国際理解教育】 マレーシア高校生ホームステイ受入れ、交流授業【国際理解教育】
		とよた産業フェスタ2014（三河仏壇のイベント協力、地産地食料理の販売、部活動のボランティア参加）【地域連携教育】
	10月	マレーシア修学旅行での現地校交流（2年生全体）【国際理解教育】 矢作川河畔公園の整備活動と活用法の考案（1年生全体）【環境教育】 E S D子どもフォーラム（愛知県）ポスターセッション参加・発表
	11月	ユネスコスクール世界大会「地域交流会」（ドイツ、オマーン、ハイチ、タイ） ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム・教員フォーラム参加 皇太子殿下行啓 ユネスコ世界会議エクスカージョン受入れ 第15回東海地区高等学校総合学科教育研究大会（本校会場）において成果発表
	12月	第3回eco-1グランプリ最終審査会出場【環境+地域連携教育】

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ア 「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」におけるE S D実践
- イ 各教科におけるE S D実践
- ウ 各教科の連携によるE S D実践

### (2) 具体的な研究活動

- ア E S Dを学校全体で体系的に推進するために、「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」をE S Dの視点から見直し、内容を充実させた。学年全体で効果的な指導を行うために産社総合教科会を隔週で設定し、同じく隔週で交互に実施される学年会と合わせ、指導体制の充実を図った。「産業社会と人間」では、1年生全員が本校近隣の矢作川に出向き、国土交通省や豊田市、N P Oと協働した事業を実施している。この活動では、グループディスカッション及びクラス・学年単位での発表活動を積極的に取り入れることにより、言語活動の充実等を図った。2年生は、修学旅行で全員がマレーシアを訪問するが、現地校との交流を核とした活動により、E S Dの視点に立った学習を進めている。地域のN G Oとの連携を拡充させ、マレーシア人との授業等を複数実施するなど、異文化理解研究を半年以上の期間で行った。
- イ 各教科にE S D担当を設置し、本校のE S Dの3本柱である「環境教育」、「国際理解教育」、「地域連携教育」を教科指導の視点から充実させることを試みた。その際、外部の教育資源も積極的に活用し、教科指導の実践の場として野外活動を多く取り入れた。環境教育では、サイエンス・パートナーシップ・プログラム（S P P）を利用して大学や地域の研究機関と連携し、校舎の横を流れる矢作川を題材に、外来生物の調査や間伐遅れの人工林の調査、獣害の調査など、野外調査を基本とした探究活動・対話活動を実施した。国際理解教育では、オーストラリア姉妹校交流やマレーシアへの修学旅行をベースとして、外国人を招へいた課題解決型の授業を複数教科で実施した。地域連携教育では、豊田市中心の商店街との協働事業をはじめ、地産地食をテーマにした産学連携事業など、ボランティア活動を含む様々な取組を実施した。

ウ 教科間の連携を深めるために、隔週で実施される系列主任会を情報交換の場とし、E S Dの視点に立った授業実践を行う際には他教科にも公開することとした。これにより様々な協働事業が生まれ始めている。例えば、地元商店街の活性化事業では、芸術科科目を中心に選択する生徒が各商店のバナー（宣伝旗）を制作し、商業科科目を中心に選択する生徒が街路灯用のフラッグを考案したほか、家庭科科目を中心に選択する生徒が調理・服飾・保育の各分野から様々な活動を行っている。獣害をテーマにした活動では、理科で体系的及び探究的な野外活動を実施するとともに、家庭科ではジビエ料理の考案など、実践的な活動を行い、互いのE S D実践を高め合うことができた。

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

##### ア E S Dの実践の3本柱の確立

E S Dには人権、平和、ジェンダー、防災など、多様な内容が含まれる。そのことが逆にE S Dの理解を多義的にし、分かりにくいものになっているとの指摘もある。本校では研究指定が始まる前から継続して発展させてきた環境教育、国際理解教育、地域連携教育という3つの柱を明確に示すことで、普段の教育活動にE S Dの意識を取り入れた。

##### イ 外部機関との連携

E S Dを持続可能な教育活動にするために、外部の教育資源を積極的に活用した。環境教育では豊田市矢作川研究所、国際理解教育ではNGOオイスカ、地域連携教育では桜町本通り商店街という、それぞれ地域に存在する団体・機関を核として連携を深めることにより、指導する教員が代わっても教育活動が継続していくシステムを構築した。

##### ウ 各学科に共通する各教科・科目でのE S Dの視点を取り入れた授業実践

総合学科の特色ある教科・科目だけではなく、各校に共通する教科・科目においてもE S Dを取り入れることに成功した。ディスカッションやロールプレイなどの手法を活用したり、外部講師を招いたりするなど、言語活動の充実等につながる取組が各教科に広がっている。また、系列主任会での情報交換や公開授業を通して、各教科の取組につながりが生じている。

さらに、研究の成果発信の場として、ユネスコや愛知県のE S Dに関する取組への積極的な参加・発表を通じて、生徒や教員が自信を深めたり、意欲を高めたりすることができた。

#### (2) 課題

- ・各教科にE S Dを取り入れることに成功したが、課外授業や一過性の授業実践が多く、各教科会等における事前・事後を含めた授業研究には検討の余地がある。
- ・E S Dの実践において、各教科間でのつながりが生まれ始めてはいるが、一部にとどまっており、教科間の調整を図るために、教務部、研修図書部と連携するとともに、系列主任会等の組織・機能を高める必要がある。
- ・授業の指導案にE S Dの視点を持ち込むことにより、効果的な評価の在り方を検討しているが、事後の振り返りが十分になされていない。授業実施後の研究協議を充実させるなど、指導と評価の一体化を目指す取組が必要である。

#### (3) 指定期間終了後の取組

- ・各教科の年間学習指導計画にE S Dの視点を取り入れ、教科間のつながりを深める。
- ・系列主任会の機能を充実させ、教科会で研究授業等の指導案の検討や授業の評価を行い、授業改善に努める。
- ・E S Dの普及・啓発のため、本校の授業実践をウェブページ等で発信する。